

「口腔内をちゃーがんじゅー（いつも元気）に！」 —ラオス国で口唇口蓋裂患者に無償医療援助手術—

琉球大学医学部附属病院医師らが、平成 28 年 12 月 16 から 20 日までにラオス国・ビエンチャン市のセタティラート病院を訪れ、口唇口蓋裂患者 16 人に手術を行いました。今回の活動には、砂川 元琉球大学名誉教授、新崎 章教授、下地孝子看護部長、西原一秀准教授、後藤尊広助教、植村岳暁歯科麻酔医、上原綾乃看護師、中村 元、別府加奈子歯科医師研修医らが琉球大学医学部附属病院から参加しました。

琉球大学医学部歯科口腔外科は、2001 年から日本口唇口蓋裂協会の要請を受けて、毎年ラオス国で口唇口蓋裂患者の無償医療援助を行い、これまでに約 250 名の患者の手術を行ってきました。その他にラオス国の児童・生徒への歯磨き指導など学校・地域レベルでの歯科保健衛生活動（国際協力機構・草の根技術協力事業）、ラオス人歯科医師の育成などに取り組み、2006 年に沖縄平和賞を受賞しました。

12 月 22 日、医師団はラオス国のソンサイ副首相を表敬し、ソンサイ副首相より「今後も継続した活動をラオス国民のためによりしくお願いします。」と謝辞が述べられました。

今回の医師団団長を務めた本学西原一秀琉球大学准教授は「この活動は、琉球大学医学部ならびにラオス国の関係者、沖縄・ラオス国口唇口蓋裂支援センターの皆様のご協力、ご支援で行われており、とても感謝しています。この活動を継続するとともに、今後は医療・教育分野に加えて、経済界と一体となってラオス国の支援・援助に取り組み、沖縄県とラオス国の友好を深めていければと考えています。」と述べています。

